

# カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 実施報告書

報告日	平成 29 年 1 月 13 日
学校名	宮崎大学教育学部附属小学校
PTA 会長名	河野 修

実施概要	実施活動名	キッズサポーター会議「CAP おとなワークショップ」～こどもの SOS を聞き逃さない～
	実施日時	平成 28 年 7 月 9 日（土）10 時 00 分～11 時 40 分
	実施場所	宮崎大学教育学部附属小学校 西校舎 3 階 実習生講義室
	実施目的	いじめや不登校といった子どもが抱える問題に対して、その兆候を見逃さず、大人（保護者・教職員）がそれぞれの立場でどのような対応・サポートをしていくことができるか各々が考えるとともに共通理解を図る機会とする。
	実施内容	子どもの人権やいじめ等に関する専門家を交えた講話・ワークショップを通じて、問題を抱えた子どもへの対応の方法やサポートの仕方等について、学校、PTA それぞれの立場で考え、習熟するとともに、相互の立場や対応に対する共通理解を深め、意識の共有化を図る。
	実施方法	講演及びワークショップ
	参加人数	保護者 47 名、教職員 26 名、計 73 名

報告事項	内容	<p>ライツオブチャイルドみやざきの方々を講師にお迎えし、「CAP おとなワークショップ～子どもの SOS を聞き逃さない～」という演題の下、「もしもいじめにあっていたら？そのとき大人はどうするか？」ということに焦点をあて、大人がどのようなサポートをしていくことができるか考える機会とするべく、キッズサポーター会議を開催しました。</p> <p>ワークショップ形式で実施されたのですが、大人に向けた話の前提として、講師の方々により、普段、子ども向けに実施されているプログラムの概要が実施され、様々な背景、いじめや不登校等といった子どもが抱える問題に対して、日頃、どのようなアドバイス、サポートがなされているかを知りました。また、ロールプレイやグループディスカッション等を通じて、自身が子どもの立場に立って考え、その感想や意見などを発表し合いました。</p>
	結果	<p>家庭、学校における子どもの教育に限らず、社会生活全般についてもそうですが、慣れや決めつけは心の緩みを生むもので、今回の体験を通じて、頭では分かっているつもりになっていることが再認識され、さらに考えを深める機会になったのではないかと思います。</p> <p>実際、参加いただいた保護者の方々、先生方からのアンケートにおいても、「子どもの権利や接し方について改めて考える機会になった」、「日頃の子育てについて反省させられた」等のお声を多数いただきました。</p>
	所感	<p>参加者からのアンケート結果も良好で、具体例を伴う内容であったことから、あらためて子どもとの関係や子どもへの対応方法について考える良い機会になったと思います。</p> <p>ただし、反省点としては、子どもとの向き合い方や子どもが発信する SOS に対して、どのような対応を図っていくのか、いくつかの具体例を伴いながらロールプレイングやグループディスカッション等がなされましたが、講演時間等の関係もあって、どうしても具体例等が限定的となってしまったため、講師との内容を事前により精査し、より多くの具体例に触れられる機会とすれば良かったと思いました。</p>

添付書類	保護者等の感想、収支決算書
------	---------------



提出日 平成29年1月13日

学校名 宮崎大学教育学部附属小学校

## カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

### 【保護者・教職員の感想】

- ・子どもの権利について改めて考えさせられ、普段の自分の言動にも気を付けたいと思った。子どもも一人の人間であり、大切な存在であることを再認識した。
- ・何気ない日常の中にも子どもを傷つける可能性がある態度や言葉の暴力といったものについて知る機会となった。
- ・子育てに慣れが生じているのではないかと考えさせられた。今から出来ることに取り組んでいきたい。
- ・ワークショップ形式だったので、体験を通じ非常に分かりやすかった。
- ・子どもの人権を尊重するためにも、まずは、大人同士が相手を尊重する考え、態度を日常から持つことが大事だと思った。
- ・子どもの出来ないことを叱るのではなく、出来ること、良い点を褒め、認めることをしながら育てていきたいと思った。
- ・子どもとの関係性を変えるためには、まず、自分の普段の態度等を振り返り、自分が変わることが大切だと思った。
- ・相手の立場にたって考えることの大切さを再確認できました。ホッと優しい気持ちになれた気がします。
- ・自分の心にゆとりを持って、子どもに接していきたいと思いました。
- ・決めつけや命令調ではなく、子どもに選択肢を与えるような態度が大切だと思いました。
- ・子どもの権利を常に意識して子どもと接することが大切であることを改めて認識した。ただ、知識、経験の少ない子どもだからこそ、大人が適切な働きかけをしていかなければならず、時には大人が本気で叱ることも必要だと思います。そのような姿が子どもにも伝わるのではないだろうか。

ほか類似の感想 38 件